大学図書館の現状と課題
～課題に負けない現場力～

お茶の水女子大学 図書･情報課長
茂出木　理子

平成18年度大学図書館職員講習会（2006.10.17 / 2006.11.14）

本日のアウトライン

1. 「学術情報基盤の今後の在り方について（報告） ～平成18年3月23日～」とは何なのか？

2. 課題は解決することに「醍醐味」がある！
   1. 課題って敵か味方か？
   2. 課題解決を楽しむことができるスキル
   3. 発想力、組織力、情熱･･･が仕事を楽しくする

「学術情報基盤の今後の在り方について（報告）」アウトライン

【経緯】

- 平成16年(2004年）11月15日　科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会　設置

- 上記作業部会の下に3つのWGを設置
  - コンピュータ・ネットワークWG
  - 大学図書館等WG
  - 学術情報発信WG

「学術情報基盤の今後の在り方について（報告）」アウトライン

【発足の意図】　報告書の序文から抜粋

- 学術情報基盤は、（わが国の）学術研究全体の発展を支える上で極めて重要。

- コンピュータ普及、電子化の進展、学術図書やジャーナルの高騰など状況の変化が起きている。が、国立大学の法人化、財政緊縮化傾向の中で、**（現場の）**対応が十分行われていない。

- 学術情報基盤として学術研究活動を支援するための基本的考え方や国が考慮すべきこと等を検討する。

「学術情報基盤の今後の在り方について（報告）」アウトライン

学術情報基盤として学術研究活動を支援するための基本的考え方や国が考慮すべきこと等を検討する？？？

学術研究の国際競争力強化

⬍

大学財政緊縮化

「学術情報基盤の今後の在り方について（報告）」
大学図書館等WG　アウトライン

【現状】

1. 大学図書館の基本的な役割

2. 電子化の急速な進展

3. 増大する大学図書館の負担
    1. 国立大学法人化等による変化

    2. 学術論文誌の価格上昇

「学術情報基盤の今後の在り方について（報告）」
大学図書館等WG　アウトライン p.55～67

【課題】

1. 大学図書館の財政基盤が不安定

2. 電子化への遅れ

3. 体系的な資料の収集・保管が困難

4. 目録所在情報サービスの問題点

「学術情報基盤の今後の在り方について（報告）」
大学図書館等WG　アウトライン

【課題】

1. 大学図書館の財政基盤が不安定
   （大学全体での共通経費化されていない・・・）

2. 電子化への遅れ
   （組織化・保存・管理・利用への対応体制、システム整備ができていない・・・）

3. 体系的な資料の収集・保管が困難
   （経費がなく、スペースがなく、保存環境がない）

「学術情報基盤の今後の在り方について（報告）」
大学図書館等WG　アウトライン

【課題】

4. 目録所在情報サービスの問題点

（目録データの品質低下、担当者削減とスキルの低下）

5. 図書館サービスの問題点

1. 専門知識、国際感覚を持った専任の図書館職員が不十分
2. 情報リテラシー教育の位置づけが不明確
3. 利用者ニーズの把握が不十分

「学術情報基盤の今後の在り方について（報告）」
大学図書館等WG　アウトライン

【今後の対応策】

1. 大学図書館の戦略的位置づけ
   → 大学としての情報戦略、全学的理解・安定的財政基盤

2. 電子化への積極的な対応

3. 今後の電子化を踏まえた大学図書館の強化すべき機能

4. 目録所在情報サービスの枠組みの強化

5. 大学図書館のサービス機能の強化
   → 人材育成

6. 社会・地域との連携推進

課題は解決することに「醍醐味」がある！

- 勇気を持って課題解決に立ち向かう

1. 課題って敵か味方か？
2. 課題解決を楽しむことができるスキル
3. 発想力、組織力、情熱･･･が仕事を楽しくする

図書館の仕事の本質を改めて考えてみる

- 「すべては〇〇のために」
- 究極のサービス業になれるか？
- ホスピタリティと図書館員気質の相関性
  - 利用者に対するサービス精神は当たり前
  - 上司、同僚、一緒に働く人への「ホスピタリティ」
  - 大学に対する「ホスピタリティ」

ヒトゴトだと思わない

- もし、現場のわれわれが「報告書」を書くとしたら何を書くだろうか？

- 予算がない？
- 人が足りない？

- 課題に対して

  「デキナイ」からのスタート vs「デキルかも」からのスタート

予算さえあれば解決？

- 「予算がない」を口癖にしていないか？
- 仕事をしない（したくない）言い分けに使ってないか？

- では、「いくらあれば何ができる」という企画・見積りを持っているか？
- 2ヶ月で1億円使って、図書館を充実させろと言われたら・・・？

- そういうの（＝経営感覚）は「エライ人」だけの仕事か？

三現主義（現地・現物・現実）

- データからは得られない「現地現物の力」に自信を持つ
- 客観的に「自分の職場」を分析できている？
- 事件は「現場」で起こっていたのでは？
  - 肌で感じる「現場感」
  - プロフェッショナル意識

問題発見能力

- 問題を見つける力はもっと評価されていい！
  - 変だと感じる力（感性！）
  - 「なぜ？」「どうする？」と考える力
  - 問題の本質を伝える力

問題解決能力

- 問題の本質を見極める
  - 「なぜ？」「なぜ？」「なぜ？」・・・
- 前例にとらわれない自由な発想
- 一石二鳥、一石三鳥を目指す。
  - 無駄な時間と予算を使わない（経営感覚）

発想力は我が身と職場を助ける

- 「知恵を出す」楽しさ！

- 「知恵を出す」ための体力作り（＝研修）
  - 知識として知っていること
  - 自律して動ける行動・思考パターンを会得
  - 実務経験が裏付ける自信

- 「10円玉で何ができるか」発想ゲーム

組織力は我が身と職場を助ける

- 一人で悩むな！一人で戦うな！

- コミュニケーション力
  - 甘えるスキルと段取り（仕切る）スキルは同居できる
  - 上司をもじょうずに使う
  - ひとつ上（ふたつ上）の視点で考える訓練

- 無意識の縦割り意識はないか・・・自己点検！

ビジョンを持って・できることから

「将来のビジョンを持ち、それを実現できると信じて進めば、未来は変えられる」

「あなたは疲れ切ってこれ以上山に登るのは無理だと思っても、頂上にすばらしい世界が待っていると分かっていれば、上を目指すでしょう。道の途中の問題ばかりを考えていては、成功しません」

「特別なことではない、それぞれができることをやろう」

〇ワンガリ・マータイさんのインタビューから
　　２００４年　　ノーベル平和賞受賞者
　　２００５年２月　お茶の水女子大学名誉博士

参考資料

- 学術情報基盤の今後の在り方について（報告） 平成18年3月23日

- 図解現場力 / 遠藤功（ゴマブックス 2005年）
- トヨタ式「カイゼン」で自分を変える！ / 若松義人監修（宝島社 2006年）
- ホスピタリティの教科書 /林田正光著 (あさ出版 2006年）
- 考える力 / 齋藤孝（大和書房 2006年）